

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
処方薬や市販薬の乱用又は依存症に対する新たな治療方法及び支援方法・支援体制構築のための研究

令和5年度～令和7年度 総合研究報告書

研究代表者 松本俊彦

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

研究要旨

【研究目的】本研究班の目的は以下の5つである。1) 精神医学・救急医学・法医学の観点から処方薬・市販薬乱用の健康被害を明らかにすること、2) 乱用リスクの高い薬剤を把握すること、3) 処方薬・市販薬使用障害患者の臨床的特徴を明らかにすること、4) 処方薬・市販薬依存症の治療法を開発すること、5) 薬局・救急医療での介入・支援方法を開発することである。

【研究方法】研究目的を遂行するために、本研究班では、依存症専門医療、救命救急医療、監察医務院、ドラッグストアという4つの異なるフィールドを生かした、5つの研究分担課題を設定し、市販薬・処方薬が引き起こす健康問題の実態を多面的に明らかにするとともに、治療および支援の介入のあり方を検討することとした。

【研究結果】3年間の研究期間中、依存症専門医療をフィールドとする2つの分担研究において、通院治療プログラムと入院治療プログラムによる介入研究が実施され、その結果、いずれのプログラムにおいても好ましい介入効果を示唆する結果が得られた。一方、救命救急医療をフィールドとする分担研究においては、市販薬過剰摂取による救急搬送患者の心理社会的背景と過剰摂取の動機、ならびに薬剤と情報の入手経路の実態が明らかにされた。監察医務院をフィールドとする調査では、中毒死の原因となっている市販薬として、購入が容易な第2類医薬品であるジフェンヒドラミン含有市販薬が突出して多いことが明らかにされた。ドラッグストアをフィールドとする分担研究では、市販薬乱用・依存の早期発見・早期介入を目的として開発された「薬剤師向けのゲートキーパー研修プログラム」が、薬局薬剤師の教育に効果的であることが証明された。

【結論と考察】3年間にわたる本研究班の活動は順調に進捗し、各研究分担課題からは、臨床上ならびに政策上重要な知見が明らかにされた。

研究分担者

沖田恭治 国立精神・神経医療研究センター病院
精神診療部 医長
上條吉人 埼玉医科大学 臨床中毒学講座 教授

引地和歌子 東京都監察医務院 部長 監察医
嶋根卓也 国立精神・神経医療研究センター 精
神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究
室長

A. 研究の背景と目的

「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」(以下、病院調査)によれば、2010年以降、処方薬乱用患者が増加し、2022年調査では、過去1年以内に薬物使用が見られる薬物関連障害患者の半数が、処方薬と市販薬を乱用している現状である。また、救急医療や法医学の立場からは、近年における医薬品過量摂取による救急搬送患者とりわけ市販薬過量摂取患者の急激な増加や市販薬含有成分急性中毒死の増加が報告されている。しかし、対策は遅れており、特に市販薬の健康被害の実態や各含有成分の影響について不明な点が多い。また、処方薬・市販薬依存症患者の増加にもかかわらず、依存症医療においては診療報酬算定対象となる専門療法がない。

本研究班の目的は以下の5つである。1) 精神医学・救急医学・法医学の観点から処方薬・市販薬乱用の健康被害を明らかにすること、2) 乱用リスクの高い薬剤を把握すること、3) 処方薬・市販薬使用障害患者の臨床的特徴を明らかにすること、4) 処方薬・市販薬依存症の治療法を開発すること、5) 薬局・救急医療での介入・支援方法を開発することである。

B. 研究方法

本研究班は、「処方薬・市販薬依存症患者の実態と通院治療プログラムの開発に関する研究」(分担:松本俊彦)、「処方薬・市販薬依存症患者の入院治療プログラムの開発に関する研究」(分担:沖田恭治)、「処方薬・市販薬過量摂取による救急搬送患者の実態と支援に関する研究」(分担:上條吉人)、「処方薬・市販薬による中毒死の実態に関する研究」(分担:引地和歌子)、「大手チェーンドラッグストアにおける市販薬販売の実態に関す

る研究」(分担:嶋根卓也)という5つの分担課題から構成されている。

「処方薬・市販薬依存症患者の実態と通院治療プログラムの開発に関する研究」では、研究班最終年度にあたる令和7年度は、本分担研究班では、2つの研究プロジェクトを実施した。1つは、「2024年全国精神科医療施設における実態調査」(以下、全国精神科病院調査)のデータを二次解析し、処方薬・市販薬関連精神疾患症例の臨床的特徴を明らかにする研究(研究1)であり、そしてもう1つは、令和6年度よりリクルートを実施している、「処方薬・市販薬などの医薬品依存症患者に対する集団療法の効果に関する非劣性試験」(研究2)である。

研究1では、「2024年全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」データベースの二次解析を行い、睡眠薬・抗不安薬・市販薬症例(医薬品群)を対象に、臨床的特徴と治療資源の利用状況を検討した。

研究2においては、国立精神・神経医療研究センター病院、埼玉県立精神医療センター、昭和医科大学烏山病院を初診した覚醒剤、大麻、処方薬、市販薬の使用症患者のうち、依存症集団療法に参加し、かつ、対象要件を満たした者を対象として24週間の追跡を行い、その社会的・心理的・職業的機能、外来通院や依存症集団療法参加の状況、精神的健康、薬物使用日数および危険な使用の有無に関する情報収集を行い、その結果を「医薬品群」と「違法薬物群」の2群で比較した。

「処方薬・市販薬依存症患者の入院治療プログラムの開発に関する研究」では、2024年11月から2025年12月までに国立精神・神経医療研究センター病院の精神科病棟に入院し処方薬・市販薬FARPPに参加した患者を対象に、患者背景や物質使用に関することを調査した。また、処方薬・市販薬FARPP実施前後で薬物依存症に関する心理尺度を用いた評価を実施し、プログラムの有効性について評価した。

「処方薬・市販薬過量摂取による救急搬送患者の実態と支援に関する研究」では、国内7箇所の救急医療機関をフィールドとして、デキストロメトルファンもしくはジフェンヒドラミンを含有する製品を摂取して急性中毒症状により救急医療機関を受診した患者を対象とした。研究参加の同意が得られた患者について、デキストロメトルファンおよびジフェンヒドラミンとその代謝産物などの血中濃度を測定し、質問紙(①DAST-20日本語版、②デキストロメトルファン・ジフェンヒドラミン中毒患者調査質問票)および患者診療録を使用して、患者の臨床的・心理的特徴について検討した。

「処方薬・市販薬による中毒死の実態に関する研究」では、東京都23区におけるすべての外因死事例を網羅している東京都監察医務院において、令和2年(2020年)から令和6年(2024年)にかけての原死因が医薬品中毒に該当すると診断された事例を抽出し、そのうち医師による処方箋を必要としないで入手された薬剤(いわゆる市販薬)が死亡に関与していると判断された事例の分析を後ろ向きに行った。

「大手チェーンドラッグストアにおける市販薬販売の実態に関する研究」では、本研究では、薬局薬剤師を対象としたオンライン型ゲーテキーパートレーニングプログラムの効果を、並行群間比較によるランダム化比較試験(RCT)デザインを用いて検証した。薬局薬剤師を、プログラムのすべてのモジュールを受講するA群(介入群)と、一部のモジュールのみを受講するB群(対照群)に無作為に割り付けた。アウトカム指標は、ゲーテキーパーに関する知識、自己効力感、および薬物使用に対するスティグマとし、アウトカムは、オンラインによる自記式質問票を用いて、ベースライン(T1)、介入直後(T2)、および6か月後のフォローアップ時点(T3)で評価した。

C. 研究結果

「処方薬・市販薬依存症患者の実態と通院治療プログラムの開発に関する研究」では、研究1において、医薬品使用症患者では、女性が多く、最近1年以内の自傷・自殺企図経験を持つ者、併存精神疾患を有する者が顕著であり、依存症集団療法や自助グループ、民間回復施設といった、従来の依存症回復支援資源を利用する者が少なく、逆に、精神医学的危機介入のための精神科入院を必要とする者が多い傾向が明らかにされた。

一方、研究2においては、リクルート期間に本研究の対象要件を満たし、かつ、研究参加に同意した者は24例と少なかった。その24例中、12例が医薬品群(処方薬3例、市販薬9例)に、そして残る12例が違法薬物群(全例覚醒剤)に分類された。両群に対する依存症集団療法による介入の効果は、違法薬物群では、24週間における薬物使用および危険な薬物使用が有意に減少し、一方、医薬品群では、24週間における薬物使用日数と危険な薬物使用が有意に減少した。以上より、依存症集団療法は医薬品使用症患者に対しても効果的である可能性が示唆された。

「処方薬・市販薬依存症患者の入院治療プログラムの開発に関する研究」では、2024年11月から2025年12月までに国立精神・神経医療研究センター病院の精神科病棟に入院し処方薬・市販薬FARPPに参加した患者のうち、28名から参加同意を取得し、うち19名が研究期間内に処方薬・市販薬FARPPの全セッションを終了した。参加後は薬物依存に対する自己効力感の向上、不安や抑うつ軽減、自殺念慮やその背景にある損なわれた所属感や他者に対する負担感の改善傾向が確認された。

「処方薬・市販薬過量摂取による救急搬送患者の実態と支援に関する研究」では、2023年7月よりデキストロメトルファンおよびジフェンヒドラミン中毒患者の前方視的症例集積を7施設で実施し、2025年末までに120例を登録した。患者は若年女性を中心に平均年齢23歳、10~20

代が8割以上を占め、8割超が同居人を有し、約65%が社会活動に従事していた。精神疾患の既往は7割超で、搬送後はICU/HCUでの管理が6割を占めるなど医療資源を多く必要とした。入手経路はドラッグストアなど実店舗が約75%で最多、服用目的は自傷・自殺が64%と最多で、現実逃避も3割に及んだ。DAST-20では軽度～中等度が多いが、16%に相当程度の依存、1%に重症依存が認められ、急性中毒搬送例の中にも精神的介入を要する群が存在することが示された。

「処方薬・市販薬による中毒死の実態に関する研究」では、調査対象期間において医薬品中毒に該当した事例数は5年間で合計514例であった。そのうち市販薬が死亡に関与していると判断された事例は合計56例であり、全医薬品中毒事例数の1割強を占めていた。その経時的な内訳は、2020年5例、2021年9例、2022年11例、2023年16例、2024年15例であり、事例数としては増加傾向にあった。なお、このうち、市販薬が直接的に死に関与していると判断ないし推定された事例は49例であった。該当事例において使用されていた市販薬はばらつきを認めたものの、最頻出は20例に上った、ジフェンヒドラミン含有市販薬で、全体の4割近くを占めた。

「大手チェーンドラッグストアにおける市販薬販売の実態に関する研究」では、ベースラインから介入直後にかけて、A群（介入群）はB群（対照群）と比較して、ゲートキーパーに関する知識（ $d=1.27$ ）および自己効力感（ $d=0.83$ ）が有意に大きく向上し、薬物使用に対するスティグマは有意に低下した（ $d=0.40$ ）。これらの介入効果は、6か月後のフォローアップ時点まで維持されていた。なお、A群と比べて効果量は小さいものの、プログラムの一部のみを受講したB群においても、すべてのアウトカム指標で改善が認められた。

D. 考察

「処方薬・市販薬依存症患者の実態と通院治療プログラムの開発に関する研究」においては、依存症集団療法に適合する医薬品使用症患者は比較的少ないが、参加可能な患者の場合には、依存症集団療法は医薬品使用症に対しても効果的な医療的資源となる可能性が示唆された。しかしその一方で、依存症集団療法に適合しない患者——女性・若年・自殺ハイリスクな重複障害症例——に特化した、治療法の開発も必要と考えられた。

「処方薬・市販薬依存症患者の入院治療プログラムの開発に関する研究」においては、処方薬・市販薬 FARPP が、不安・抑うつ・孤独感・希死念慮などの、処方薬・市販薬使用障害患者に親和性の高い心理的問題の改善に寄与する可能性が示唆された。処方薬・市販薬 FARPP は、外来加療が困難な治療抵抗性の患者に対しても、有効な治療選択肢となるかもしれない。

「処方薬・市販薬過量摂取による救急搬送患者の実態と支援に関する研究」からは、デキストロメトルフアンやジフェンヒドラミンを含む市販薬を過量摂取し急性中毒で救急受診した患者の多くが若年女性で、家族と同居し社会活動を続けながらも周囲に相談できず、苦痛や現実逃避の手段として市販薬を乱用していたことが示された。服用目的は自殺企図が6割超と最多だが、約3人に1人は現実逃避を目的としていた。情報源はインターネットやSNSが中心で、同じ境遇の仲間とのつながりや承認欲求が乱用拡大の一因と考えられた。入手は手軽なドラッグストアが主で、実店舗におけるゲートキーパー機能が乱用防止に重要と示唆された。薬物問題の重症度に関しては、比較的軽症者が多くを占める一方で、15%あまり、精神医学的介入を要する重篤な病態を有する患者群の存在も明らかになっており、救急医療と精神科医療の連携の必要性が示唆された。

「処方薬・市販薬による中毒死の実態に関する研究」では、東京都監察医務院での調査結果を踏まえて、以下の提言が行われた。すなわち、2026

年5月施行の改正医薬品医療機器法では、ジフェンヒドラミンを含む8成分が「指定乱用防止医薬品」として販売規制の対象となるが、入手経路を完全に遮断することは現実的ではなく、また、現状では、ジフェンヒドラミンを含む薬剤は第2類医薬品であり、対面での服薬指導義務や購入制限がなく、インターネットでも容易に入手できてしまう。乱用防止や犯罪抑止の観点から、実態に基づいた関係機関への継続的な注意喚起が重要と考えられる。

「大手チェーンドラッグストアにおける市販薬販売の実態に関する研究」からは、約90分間のオンラインによるゲートキーパートレーニングプログラムは、薬局薬剤師のゲートキーパーに関する知識や自己効力感を向上させるとともに、市販薬のオーバードーズや依存に対するスティグマを軽減する可能性が示唆された。オンデマンド型のオンライン形式による提供は、標準化された介入を低コストで実施でき、多様な医療環境において薬局薬剤師をオーバードーズの予防に参画させるための、拡張性と実行可能性の高いアプローチであると考えられた。

E. 結論

研究班最終年度にあたる今年度、依存症専門医療をフィールドとする2つの分担研究において、通院治療プログラムと入院治療プログラムの介入研究が開始され、そのいずれにおいても好ましい効果を示唆する結果が得られた。一方、救命救急医療をフィールドとする分担研究においては、市販薬過剰摂取による救急搬送患者の心理社会的背景と過剰摂取の動機、ならびに薬剤と情報の入手経路の実態が明らかにされた。また、監察医務院をフィールドとする調査では、中毒死の原因となっている市販薬としては、ジフェンヒドラミン含有市販薬が突出して多いことが明らかにされた。さらに、ドラッグストアをフィールドとす

る分担研究では、市販薬乱用・依存の早期発見・早期介入を目的とする薬剤師向けのゲートキーパー研修プログラムの有効性が証明された。

以上の通り、3年間にわたる本研究班の活動は順調に進捗し、各研究分担課題からは、臨床上ならびに政策上重要な知見が明らかにされた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

令和5年度

- 1) Kondo A, Shimane T, Takahashi M, Kobayashi M, Otomo M, Takeshita Y, Matsumoto T: Sex differences in the characteristics of stimulant offenders with a history of substance use disorder treatment. *Neuropsychopharmacol Rep.* 2023; 00: 1-9.
<https://doi.org/10.1002/npr2.12357>
- 2) Katayama M, Sugiura K, Fujishiro S, Fujishiro S, Konishi J, Inada K, Shirakawa N, Matsumoto T: Factors influencing stigma among healthcare professionals towards people who use illicit drugs in Japan: a quantitative study. *Psychiatry Clin Neurosci Rep.* 2023; 2: e125.
<https://doi.org/10.1002/pcn5.125>
- 3) Yuji Masataka, Takeshi Sugiyama, Yoshiyuki Akahoshi, Chihiro Nozaki, Toshihiko Matsumoto: Positive Urinalysis for Δ^9 -tetrahydrocannabinol (THC) in Hexahydrocannabinol (HHC) Users A Cross-sectional

- Study .Japanese Alcohol Study & Drug Dependence 2023; 58(1): 23-30.
- 4) Katayama M, Fujishiro So, Sugiura K, Konishi J, Inada K, Shirakawa N, Matsumoto T: Stigmatized attitudes of medical staff toward people who use drugs and their determinants in Japanese medical facilities specialized in addiction treatment. Neuropsychopharmacol Rep. 2023;43:576–586. <https://doi.org/10.1002/npr2.12380>
 - 5) 高野歩, 熊倉陽介, 松本俊彦: アルコール問題に対するハームリダクションアプローチ—理念と海外における実践を中心に—. 精神神経学雑誌 125 (5): 352-364, 2023.
 - 6) 片山宗紀, 藤城聡, 稲田健, 松浦良昭, 山田貴志, 白川教人, 松本俊彦: 自治体の支援者のスティグマ解消策としての当事者と専門職との協働による研修の有効性. 日本アルコール関連問題学会雑誌 24(2): 89-94, 2023.
 - 7) 松本俊彦: ゲーム障害と神経発達症—アディクション臨床と児童青年期臨床の交差点. そだちの科学 40 : 84-86, 2023.
 - 8) 松本俊彦: 依存症をどのように聞き出したらよいか. 精神科治療学 38(4) : 449-454, 2023.
 - 9) 松本俊彦: 依存症をどのようにききだしたらよいか. 精神科治療学 38(4) : 449-454, 2023.
 - 10) 沖田恭治, 松本俊彦: 物質およびアルコール使用障害の診断・治療において望まれる対応と検査. 精神医学 65(6) : 891-898, 2023.
 - 11) 松本俊彦: 日本社会精神医学会相模原事件特別委員会で考えたこと. 日本社会精神医学会 32(2) : 154-159, 2023.
 - 12) 松本俊彦: 自傷と市販薬乱用の理解と援助. 子どもの虐待とネグレクト 25(2) : 175-181, 2023.
 - 13) 松本俊彦: 非自殺性自傷 non-suicidal self-injury について. 福岡行動医学雑誌 29(1) : 11-18, 2023.
 - 14) 松本俊彦: アディクションとその周辺 発刊にあたり. 精神科治療学 38 増刊号 : 3-4, 2023.
 - 15) 松本俊彦: アディクションとは何か—凝り性や没頭と何が違うのか?—. 精神科治療学 38 増刊号 : 10-14, 2023.
 - 16) 松本俊彦: 自己治療仮説. 精神科治療学 38 増刊号 : 54-58, 2023.
 - 17) 松本俊彦: 物質使用症の概念・症候・診断. 精神科治療学 38 増刊号 : 84-88, 2023.
 - 18) 宇佐美貴士, 松本俊彦: ベンゾジアゼピン受容体作動薬使用症. 精神科治療学 38 増刊号 : 174-177, 2023.
 - 19) 松本俊彦: 薬物使用症治療における司法的対応の原則. 精神科治療学 38 増刊号 : 188-191, 2023.
 - 20) 松本俊彦: 痛みアディクションとしての自傷行為とボディモディフィケーション. 精神科治療学 : 332-336, 2023.
 - 21) 松本俊彦: なぜ子どもの自殺が増えているのか? 生徒指導 53(12) : 12-15, 2023.
 - 22) 松本俊彦: 日本の大麻政策再考. 中央公論 137(12) : 162-169, 2023.
 - 23) 松本俊彦: わが国の大麻政策の現状と課題. 臨床精神薬理 26(12) : 1191-1199, 2023.
 - 24) 宇佐美貴士, 松本俊彦: 処方薬, OTC 医薬品, 個人輸入医薬品による使用障害の

- 現状と課題—疫学的観点から—。臨床精神薬理 26(12) : 1131-1137, 2023.
- 25) 松本俊彦, 山口重樹: わが国の緩和医療・慢性疼痛医療施設における医療用麻薬の不適切使用に関する調査。日本アルコール・薬物医学会雑誌 58(2) : 3-17, 2023.
- 26) 松本俊彦: 自傷と市販薬乱用。日本社会精神医学会雑誌 32(4) : 348-354, 2023.
- 27) 松本俊彦: 薬物依存症のサイエンス。BRAIN and NERVE 76(1) : 81-87, 2024.
- 28) 松本俊彦: 薬物依存症地域支援の方法。こころの支援と社会モデル トraumainフォームドケア・組織変革・共同創造, 金剛出版, 東京, pp184-192, 2023.
- 29) 松本俊彦: 薬物依存症臨床におけるADHD。発達障害の精神病理IV—ADHD 編一, 星和書店, 東京, pp65-87, 2023.
- 30) 松本俊彦: 1章 物質使用症群 物質使用症の病態 心理社会的視点。講座 精神疾患の臨床 物質使用症又は嗜癖行動症群性別不合, 中山書店, 東京, pp55-63, 2023.
- 31) 宇佐美貴士、松本俊彦: 第1章 物質使用症群 物質使用症各論 その他の物質使用症。講座 精神疾患の臨床 物質使用症又は嗜癖行動症群性別不合, 中山書店, 東京, pp207-216, 2023.
- 32) 松本俊彦: 子どもの”やめられない”と向き合う。子どものからだと心白書 2023, ブックハウス HD, 東京, pp23-25, 2023.
- 33) 沖田 恭治. 【アディクションとその周辺】アディクション総論 アディクションの発症機序と病態を説明する理論 ドパミンを無視してアディクションを理解すること勿れ 報酬系とドパミン神経伝達について 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):44-48
- 34) 沖田 恭治, 石井 香織. 【アディクションとその周辺】アディクション各論 物質使用症 薬物使用症の症候と治療 市販薬使用症 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):178-183
- 35) Hiroshi Matsuda, Tsutomu Soma, Kyoji Okita, Yoko Shigemoto, Noriko Sato. Development of software for measuring brain amyloid accumulation using 18 F-florbetapir PET and calculating global Centiloid scale and regional Z-score values. Brain and behavior. 2023年7月;13(7):e3092-.
- 36) 林 大祐, 五十嵐 俊, 山崎 龍一, 松田 勇紀, 松尾 淳子, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 磁気けいれん療法(MST)により寛解した高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S408-S408.
- 37) 林 大祐, 五十嵐 俊, 山崎 龍一, 松田 勇紀, 松尾 淳子, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 磁気けいれん療法(MST)から電気けいれん療法(ECT)に切り替えた高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S409-S409.
- 38) 松尾 淳子, 林 大祐, 五十嵐 俊, 松田 勇紀, 山崎 龍一, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 精神疾患へのニューロモデュレーション療法のための探索的マスタープロトコル アンブレラ・バスケット試験 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S696-S696.
- 39) 沖田 恭治, 松本 俊彦. 【精神科医療の必須検査・精神科医が知っておきたい臨床検

- 査の最前線】物質およびアルコール使用障害の診断・治療において望まれる対応と検査 精神医学.2023年6月;65(6):891-898
- 40) 沖田 恭治.【感情の力 コントロールと言語化を超えて】臨床実践における感情作業 アディクション診療において感情を扱うことの難しさ アレキシサイミアとの関係 精神療法.2023年4月;49(2):207-211
- 41) Yoko Shigemoto, Noriko Sato, Norihide Maikusa, Daichi Sone, Miho Ota, Yukio Kimura, Emiko Chiba, Kyoji Okita, Tensho Yamao, Moto Nakaya, Hiroyuki Maki, Elly Arizono, Hiroshi Matsuda. Age and Sex-Related Effects on Single-Subject Gray Matter Networks in Healthy Participants. Journal of personalized medicine. 2023年2月26日;13(3):-.
- 42) Yehong Fang, Yi Liu, Ling Li, Dara G Ghahremani, Jianhua Chen, Kyoji Okita, Wenbin Guo, Yanhui Liao. Editorial: Community series in neurobiological biomarkers for developing novel treatments of substance and non-substance addiction, volume II. Frontiers in psychiatry. 2023年;14:1134561-1134561.
- 43) 喜屋武玲子：我が国における市販薬過量服用の実態.レジデント, 医学出版, 東京, 2023.
- 44) 高橋哲, 鈴木愛弓, 近藤あゆみ, 服部真人, 小林美智子, 喜多村真紀, 嶋根卓也：覚醒剤事犯受刑者における自殺念慮の生涯体験率とその関連要因の検討. 自殺予防と危機介入, 第44巻1号 (in press)
- 45) 嶋根卓也：依存症治療における薬剤師の役割：医療品の乱用・依存を例として. 日本アルコール関連学会雑誌, 24(2)：15-19, 2023.
- 46) 嶋根卓也：大麻を使う若者たちとのコミュニケーションー有効な、有効ではない予防教育ー. 刑政 134(7)：38-49, 2023.
- 47) 嶋根卓也：薬物問題の現状と課題ー疫学と国の対策ー. IIアディクション各論ー1.物質使用症, 精神科治療学第38巻増刊号：78-83, 2023.
- 48) 嶋根卓也：子どもたちの市販薬乱用の現状と対応. 特集・子どもたちの生命を守るためにー自死予防を中心に. 教育と医学 71(6)：73-79, 2023.
- 49) 嶋根卓也：1章 物質使用症群 物質使用症の疫学 薬物使用. 物質使用症又は嗜癖行動症群 性別不合 (講座 精神疾患の臨床) (樋口進 編), 中山書店, 東京, pp24-40, 2023.
- 50) 嶋根卓也：Topics 大麻合法化とその影響. 物質使用症又は嗜癖行動症群 性別不合 (講座 精神疾患の臨床) (樋口進 編), 中山書店, 東京, pp161-169,2023.
- 51) 嶋根卓也：II-4 「助けて」という気持ちをクスリと一緒に飲み込んでしまう(「助けて」が言えない 子ども編) (松本俊彦 編), 日本評論社, 東京, pp166-177,2023.
- 52) 嶋根卓也：日本における薬物依存の現状. 第10章 10.1 薬物依存, アルコール・薬物・ギャンブル・ゲームの依存ケアサポート (樋口進 監修), 講談社, 東京, pp122-135, 2023.
- 令和6年度
- 1) Tanibuchi Y, Omiya S, Usami T, Matsumoto T：Clinical characteristics of over-the-counter (OTC) drug abusers in psychiatric practice in Japan: Comparison of single and multiple OTC

- product abusers.
Neuropsychopharmacol Rep.
2024;00:1–11.
<https://doi.org/10.1002/npr2.12415>
- 2) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T. Situational factors affecting abstinence from drugs: Panel data analysis of patients with drug use disorders in residential drug use treatment. *Psychiatry Clin Neurosci Rep*. 2024;3:e174.
<https://doi.org/10.1002/pcn5.174>
 - 3) Usami T, Okita K, Shimane T, Matsumoto T. Comparison of patients with benzodiazepine receptor agonist-related psychiatric disorders and over-the-counter drug-related psychiatric disorders before and after the COVID-19 pandemic: Changes in psychosocial characteristics and types of abused drugs. *Neuropsychopharmacol Rep*. 44: 437-446, 2024.
 - 4) Siste K, Ophinni Y, Hanafi E, Yamada C, Novalino R, Limawan AP, Beatrice E, Rafelia V, Alison P, Matsumoto T, Sakamoto R : Relapse Prevention Group Therapy in Indonesia Involving Peers via Videoconferencing for Substance Use Disorder: Development and Feasibility Study *JMIR Form Res* 2024;8:e50452 URL:
<https://formative.jmir.org/2024/1/e50452>
doi: 10.2196/50452
 - 5) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T. Psychosocial characteristics of the general population who habitually use hypnotics: results from a national survey on drug use among the Japanese. *Psychiatry Clin Neurosci Rep*. 2024;3:e208.
<https://doi.org/10.1002/pcn5.208>
 - 6) Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, Takai M, Shimane T, Matsumoto T. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci Rep*. 2024;3:e225.
<https://doi.org/10.1002/pcn5.225>
 - 7) Katayama M, Fujishiro S, Sugiura K, Konishi J, Inada K, Shirakawa N, Matsumoto T. Greater impact of COVID-19 on peer-supported addiction services than government-owned services for addiction in Japan: a nationwide 3-year longitudinal cohort study. *Psychiatry Clin Neurosci Rep*. 2024;3:e70012.
<https://doi.org/10.1002/pcn5.70012>
 - 8) Tsutsumi S, Takano A, Usami T, Kumakura Y, Kanazawa Y, Takebayashi T, Sugiyama D, Matsumoto T. Risk and protective factors for early dropout from telephone monitoring for individuals with drug convictions in community mental health centers in Japan. *Journal of substance use and addiction treatment*. 2024 Jul 1;162:209347.
 - 9) Takano A, Takahashi K, Anzai T, Usami T, Tsutsumi S, Kanazawa Y, Kumakura Y, Matsumoto T. Predictors for recurrence of drug use among males on probation for methamphetamine use in Japan: a one-year follow-up study. *Drug*

- and Alcohol Dependence Reports. 2024 Dec 27:100316.
- 10) Yuji Masataka, Futaba Umemura, Akihiko Nagamine, Naoko Miki, Yoshiyuki Akahoshi, Toshihiko Matsumoto, hiro Takumi : How Cannabinol Is Utilized in Japan, a Country with Strict Cannabis Regulations—Its Purposes, Medical Effects, Adverse Events, and Dependence. Integrative Medicine Reports Volume 3.1, 2024 DOI: 10.1089/imr.2024.0045 Accepted October 17, 2024
 - 11) 片山宗紀, 藤城聡, 松浦寛奈, 小西潤, 稲田健, 白川教人, 松本俊彦 : 医療従事者の薬物使用の通報や刑罰に関する意識とこれに対する支援経験や知識の影響. 日本アルコール関連問題学会雑誌 25(2) : 51-56, 2024.
 - 12) 宇佐美貴士, 村上真紀, 松本俊彦 : ベンゾジアゼピン受容体作動薬関連障害の類型化と大量使用からの減量法の検討. 精神神経学雑誌 126(8) : 510-520, 2024.
 - 13) 正高佑志, 平野弘樹, 梅村二葉, 赤星栄志, 荒木李香, 丸山泰弘, 松本俊彦 : 指定薬物制度による THCH 規制が市場流通と事業者に与えた影響についての横断調査. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 59 (2) : 41-52, 2024.
 - 14) 松本俊彦 : 薬物依存症のサイエンス. BRAIN and NERVE 76(1) : 81-87, 2024.
 - 15) 松本俊彦 : 十代における市販薬乱用・依存～自傷と自殺のあいだ. 小児の精神と神経 165 : 21-28, 2024.
 - 16) 村田雄一, 立山和久, 山元直道, 浪久悠, 石岡俊之, 吉村直記, 松本俊彦 : Real 生活プログラムとリカバリー—医療機関における作業療法士の実践—. 日本アルコール関連問題学会雑誌 25(2) : 9-14, 2024.
 - 17) 松本俊彦 : 現代の精神科臨床で解離はどのように扱われているか? 精神医学 66(8) : 1013-1019, 2024.
 - 18) 松本俊彦 : 物質使用症臨床における支持的精神療法—心的外傷後ストレス症併存使用例に対する harm reduction psychotherapy の実践—. 精神神経学雑誌 126(8) : 533-539, 2024.
 - 19) 松本俊彦 : オーバードーズ. 日本医師会雑誌 153(6) : 653-656, 2024.
 - 20) 松本俊彦 : 精神障害の流行がもたらした影響について—臨床症候群の栄枯盛衰に関する個人史—. 精神科治療学 39(9) : 947-953, 2024.
 - 21) 松本俊彦 : 大麻. 精神科治療学 39 増刊号 : 224-225, 2024.
 - 22) 宇佐美貴士, 松本俊彦 : 鎮静剤, 睡眠薬または抗不安薬による奇異反応. 精神科治療学 39 増刊号 : 234-235, 2024.
 - 23) 松本俊彦 : LSD, phencyclidine, その他幻覚剤など (psilocybin など). 精神科治療学 39 増刊号 : 230-231, 2024.
 - 24) 松本俊彦 : 我が国における薬物乱用・依存の実態と対策の課題. ファルマシア 60(11) : 1003-1008,
 - 25) 堤史織, 宇佐美貴士, 高野歩, 熊倉陽介, 金澤由佳, 武林亨, 杉山大典, 松本俊彦 : 薬物犯罪の更生保護施設利用者における健康格差. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 59(3) : 53-66, 2024.
 - 26) 松本俊彦 : 「わかっちゃいるけど、やめられない、とまらない」という精神症状を「依存症」から「アディクション」へ. 精神看護 28(1) : 32-37, 2024.

- 27) 沖田恭治.精神科疾患に対する向精神薬のオフラベル使用を考える 物質関連障害に対する薬物療法とオフラベルユースについて 臨床精神薬理.2024年12月;27(12):-
- 28) 沖田恭治.物質・医薬品-1.依存性物質 3) 鎮咳薬・総合感冒薬 精神科治療学.2024年10月;39(増刊):-
- 29) 沖田 恭治.【精神疾患・精神症状にはどこまで脳器質的背景があるのか-現代の視点から見直す】物質使用症の脳器質的背景 精神医学.2024年4月;66(4):412-417
- 30) 杉原有希, 山中恵里子, 村上真紀, 沖田恭治, 武村尊生, 武村尊生, 松本俊彦, 山口重樹.多施設,多職種連携によりオピオイド使用障害から脱した症例を通して考える本邦におけるオピオイド使用障害への対応の問題点 日本サイコオンコロジー学会総会(Web).2024年;37th0:-
- 31) 沖田恭治.実態調査と臨床現場から紐解く市販薬使用の問題 日本精神神経学会総会プログラム・抄録集.2024年;120th0:-
- 32) 五十嵐俊, 五十嵐俊, 沖田恭治, 林大祐, 野田隆政, 鬼頭伸輔, 鬼頭伸輔.Long COVIDに続発した大うつ病性障害(MDD)に対する反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)による炎症性変化について:症例報告 日本うつ病学会総会プログラム・抄録集.2024年;21st0:-
- 33) 沖田 恭治.【アディクションとその周辺】アディクション総論 アディクションの発症機序と病態を説明する理論 ドパミンを無視してアディクションを理解すること勿れ 報酬系とドパミン神経伝達について 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):44-48
- 34) 沖田 恭治.【アディクションとその周辺】アディクション総論 アディクションの発症機序と病態を説明する理論 ドパミンを無視してアディクションを理解すること勿れ 報酬系とドパミン神経伝達について 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):44-48
- 35) 沖田 恭治, 石井 香織.【アディクションとその周辺】アディクション各論 物質使用症 薬物使用症の症候と治療 市販薬使用症 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):178-183
- 36) Hiroshi Matsuda, Tsutomu Soma, Kyoji Okita, Yoko Shigemoto, Noriko Sato. Development of software for measuring brain amyloid accumulation using 18 F-florbetapir PET and calculating global Centiloid scale and regional Z-score values. Brain and behavior. 2023年7月;13(7):e3092-.
- 37) 林 大祐, 五十嵐 俊, 山崎 龍一, 松田 勇紀, 松尾 淳子, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 磁気けいれん療法(MST)により寛解した高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S408-S408.
- 38) 林 大祐, 五十嵐 俊, 山崎 龍一, 松田 勇紀, 松尾 淳子, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 磁気けいれん療法(MST)から電気けいれん療法(ECT)に切り替えた高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S409-S409.
- 39) 松尾 淳子, 林 大祐, 五十嵐 俊, 松田 勇紀, 山崎 龍一, 稲川 拓磨, 川上 裕, 沖田 恭治, 藤井 猛, 野田 隆政, 住吉 太幹, 鬼頭 伸輔. 精神疾患へのニューロモデュレーション療法のための探索的マスタープロトコル アンブレラ・バスケット試験 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S696-S696.

- 40) 沖田 恭治, 松本 俊彦. 【精神科医療の必須検査-精神科医が知っておきたい臨床検査の最前線】 物質およびアルコール使用障害の診断・治療において望まれる対応と検査 精神医学.2023年6月;65(6):891-898
- 41) 沖田 恭治. 【感情の力 コントロールと言語化を超えて】 臨床実践における感情作業 アディクション診療において感情を扱うことの難しさ アレキシサイミアとの関係 精神療法.2023年4月;49(2):207-211
- 42) Yoko Shigemoto, Noriko Sato, Norihide Maikusa, Daichi Sone, Miho Ota, Yukio Kimura, Emiko Chiba, Kyoji Okita, Tensho Yamao, Moto Nakaya, Hiroyuki Maki, Elly Arizono, Hiroshi Matsuda. Age and Sex-Related Effects on Single-Subject Gray Matter Networks in Healthy Participants. Journal of personalized medicine. 2023年2月26日;13(3):-.
- 43) Yehong Fang, Yi Liu, Ling Li, Dara G Ghahremani, Jianhua Chen, Kyoji Okita, Wenbin Guo, Yanhui Liao. Editorial: Community series in neurobiological biomarkers for developing novel treatments of substance and non-substance addiction, volume II. Frontiers in psychiatry. 2023年;14:1134561-1134561.
- 44) Hiroshi Matsuda, Tsutomu Soma, Kyoji Okita, Yoko Shigemoto, Noriko Sato. Development of software for measuring brain amyloid accumulation using 18 F-florbetapir PET and calculating global Centiloid scale and regional Z-score values. Brain and behavior. 2023;13(7):e3092-.
- 45) Daisuke Hayashi, Shun Igarashi, Ryuichi Yamazaki, Yuki Matsuda, Takuma Inagawa, Yutaka Kawakami, Kyoji Okita, Takamasa Noda, Tomiki Sumiyoshi, Shinsuke Kito. Magnetic seizure therapy for depression in the very elderly: A report of two patients in their 80s Asian Journal of Psychiatry. 2023;90: 103806- 103806.
- 46) Shun Igarashi, Kyoji Okita, Daisuke Hayashi, Ryuichi Yamazaki, Yuki Matsuda, Takamasa Noda, Koichiro Watanabe, Shinsuke Kito. Neuroinflammatory Alterations in Treatment-Resistant Depression Secondary to Long COVID by Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation (rTMS): A Case Report Psychiatric Research and Clinical Practice. 2024;6(2):63-64.
- 47) Kaori Ishii, Kyoji Okita. Potential effect of ketamine in treatment for dextromethorphan use disorder exploding in Japanese young population. Asian journal of psychiatry. 2024;99:104164-104164.
- 48) Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, Takai M, Shimane T, Matsumoto T, et al. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan. PCN Rep. 2024;3(3):e225.
- 49) Mizuno S, Inoura S, Matsumoto T, Shimane T: Characteristics of drinking habits of people who overdose on over-the-counter drugs: Insights from a nationwide Japanese survey.

- Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 2024.
- 50) Kyan R, Kamijo Y, Kohara S, Takai M, Shimane T, Matsumoto T, Fukushima H, Narumi S, Chiba T, Sera T, Otani N, Iwasaki Y. Prospective multicenter study of the epidemiological features of emergency patients with overdose of over-the-counter drugs in Japan. PCN Rep. 15;3(3):e225. 2024.
- 51) Omiya S, Shimane T, Takagishi Y, et al. Gender differences in the effect of trust on substance abuse severity among incarcerated stimulant offenders in Japan. Neuropsychopharmacology Reports 45(1): e12517
- 52) 喜多村 真紀, 嶋根 卓也, 高橋 哲, 小林 美智子, 大伴 真理恵, 鈴木 愛弓, 松本 俊彦: 薬物使用のトリガーとしての月経前症状を持つ女性の特徴—覚醒剤使用のメリット・デメリットに焦点を当てて—. 女性心身医学 28(3): 349-356, 2024.
- 53) 高橋 哲, 鈴木 愛弓, 近藤 あゆみ, 服部 真人, 小林 美智子, 喜多村 真紀, 嶋根 卓也. 覚醒剤事犯受刑者における自殺念慮の生涯経験率とその関連要因の検討. 自殺予防と危機介入 44(1): 82-89, 2024.
- 54) 助友裕子, 市瀬雄一, 細川佳能, 大浦麻絵, 嶋根卓也, ほか. 高等学校 2 年生のがんリスク認知の関連要因: がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析、日本公衆衛生学会雑誌 2025 (in press)
- 55) 嶋根卓也: 保健室から考えるオーバードーズをする子への対応. 心とからだの健康 28(9) : 18-23, 2024.
- 56) 嶋根卓也: 薬物使用—市販薬の過剰服薬 (オーバードーズ). 小児内科 56(9) : 1409-1412, 2024.
- 57) 嶋根卓也: 市販薬のオーバードーズの理解と薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会雑誌 60(10) : 1072-1076, 2024.
- 58) 嶋根卓也: 市販薬乱用の理解とゲートキーパーとしての薬剤師. ファルマシア 60(11) : 1045-1049, 2024.
- 令和 7 年度
- 1) Omiya S, Shimane T, Takagishi Y, Kondo A, Kobayashi M, Takahashi M, Otomo M, Nakazawa A, Matsumoto T: Gender Differences in the Effects of Trust on Substance Abuse Severity Among Incarcerated Stimulant Offenders in Japan. Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Mar;45(1):e12517. doi: 10.1002/npr2.12517.
- 2) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Kitamura M, Matsumoto T: Characteristics linked to mortality risk among individuals with drug use disorders enrolled in drug rehabilitation facilities in Japan. Psychiatry Clin Neurosci Rep. 2025;4:e70112. <https://doi.org/10.1002/pcn5.70112>
- 3) Masataka Y, Akahoshi Y, Katayama M, Umemura F, Miki N, Nakazawa R, Shibata K, Yoshida C, Mikami A, Matsumoto T, Akino K, Takumi I (2025) How has Japan's Cannabis Control Act been amended? Cannabis and Cannabinoid Research 00:0, 000–000, DOI:10.1089/can.2025.0006.
- 4) Masataka Y, Katayama M, Umemura F, Sugiyama T, Miki N, Akahoshi Y, Oka C, Asahi T, Matsumori T, Takumi I, Murata H, Matsumoto T: Revisiting the Gateway Drug Hypothesis for Cannabis: A Secondary Analysis of a Nationwide Survey Among Community Users in Japan.

- Neuropsychopharmacology Reports, <https://doi.org/10.1002/npr2.70033>
- 5) Ofuchi T, Shimane T, Matsumoto T: Spirituality and Continued Abstinence Among Methamphetamine Users in a 12-Step Program in Japan: Data From a Cohort Study of Residential Substance Use Treatment. Neuropsychopharmacology Reports, <https://doi.org/10.1002/npr2.70032>
 - 6) Hirohashi D, Masataka Y, Miki N, Akahoshi Y, Takumi I, Matsumoto T: Why do you smoke cannabis? Qualitative interviews of Japanese cannabis users. Drug Science, Policy and Law, 11: 1–9.
 - 7) Matsumoto T, Usami T, Nishimura A, Higuchi S, Okita K, Shimane T : Clinical Characteristics of Patients With Cannabis-Related Mental Disorders and an Examination of Factors Influencing Their Access to Medical and Nonmedical Resources: Comparison of Methamphetamine-Related Mental Disorders. Neuropsychopharmacology Reports, 2025; 45:e70051 <https://doi.org/10.1002/npr2.70051>
 - 8) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T: Co-occurring mental and substance use disorders among residents of Drug Addiction Rehabilitation Centers (DARCs) in Japan: characterizing dual-diagnosis profiles. Psychiatry Clin Neurosci Rep. 2025;4:e70196. <https://doi.org/10.1002/pcn5.70196>
 - 9) Matsumoto T, Usami T, Nishimura A, Higuchi S, Okita K, Shimane T: Deliberate self-harm in adolescents with OTC-related psychiatric disorders: A study of prevalence and associated factors. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2025 Dec 15;4(4):e70271. doi: 10.1002/pcn5.70271. eCollection 2025 Dec.
 - 10) Usami T, Matsumoto T, Okita K, Nakao T, Shimane T: Clinical characteristics and treatment resource utilization among patients with substance use disorders: A comparative study of individuals who misuse pharmaceuticals and use illegal drugs. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2025 Dec 23;4(4):e70277. doi: 10.1002/pcn5.70277. eCollection 2025 Dec.
 - 11) Takano A, Okuda K, Sese J, Ono K, Matsumoto T: Individual variability in physiological responses and psychological conditions associated with methamphetamine use: Pilot study using wearable device and self-monitoring mobile application. JMIR Formative Research. 18/12/2025:73790 (forthcoming/in press)
 - 12) 松本俊彦: 市販薬問題が私たちに訴えていること 社会が「毒親」化していないか? 精神看護 28(2) : 93-103, 2025.
 - 13) 西村晃萌, 沖田恭治, 松本俊彦 : 覚醒剤と幻覚, 症状と治療. 臨床精神医学 54(3) : 261-266, 2025.
 - 14) 松本俊彦 : 依存症回復支援施設「ダルク」入寮者の実名報道について. 心と社会 56(1) : 65-69, 2025.
 - 15) 松本俊彦 : 薬物依存症臨床から見た市販薬乱用・依存の実態と治療上の課題. 日本精神薬学会誌 8(2) : 14-16, 2025.
 - 16) 松本俊彦 : 現代カルチャーと依存症臨床の現在. 精神医学 67(4) : 449-456, 2025.
 - 17) 松本俊彦 : 市販薬オーバードーズ問題は大人たちに何を訴えているのか? – 自傷行為と

- 自殺との関係=。子ども学 13 : 139-159, 2025.
- 18) 松本俊彦:依存症臨床における「ベンゾ掃除」のやり方ーベンゾジアゼピン受容体作動薬使用症の治療ー。精神科治療学 40(5) : 527-532, 2025.
- 19) 松本俊彦:今あらためて問う,「アディクションとは何か?」。精神療法 増刊第12号 アディクション支援のフロントライン : 7-12, 2025.
- 20) 松本俊彦:わが国の大麻政策の課題と大麻使用症治療の実際。精神療法 増刊第12号 アディクション支援のフロントライン : 189-195, 2025.
- 21) 宇佐美貴士, 松本俊彦:ベンゾジアゼピン受容体作動薬使用症の治療。精神療法 増刊第12号 アディクション支援のフロントライン : 198-205, 2025.
- 22) 松本俊彦:精神科臨床現場における市販薬使用症の実態。治療 総合診療を語り明かす 107(8) 72-76, 2025.
- 23) 松本俊彦:薬物規制法と地域精神保健福祉的支援ー司法と地域を結ぶ架け橋「Voice Bridge Project」の試み。医学のあゆみ 294 (3) : 268-272, 2025.
- 24) 松本俊彦:子どもの市販薬乱用の現状と対策。小児内科 57(7) : 960-963, 2025.
- 25) 松本俊彦:市販薬オーバードーズについて。プライマリケア 10(4) : 58-60, 2025.
- 26) 松本俊彦:アルコール・薬物依存。今日の診断指針 第9版, 東京, pp1385-1387, 2025.
- 27) 松本俊彦:人生を生き延びるために。生きるためのブックガイド, 岩波書店, 東京, pp2-8, 2025.
- 28) 松本俊彦:第2章各論 9 アディクションと診断エラー。失敗から学ぶ 小児神経診断エラー学, 東京, pp110-116, 2025.
- 29) 松本俊彦:自助グループはハームリダクションされた宗教!? 自閉症スペクトラム症の私は、いかにこの世界を生きているか, 金剛出版, 東京, PP139-153, 2025.
- 30) 松本俊彦:各論 21 物質使用症又は嗜癖行動症群 2 精神作用物質。日本精神神経学会 精神科専門医テキスト, 東京, pp550-564, 2025.
- 31) 石井 香織, 沖田 恭治ほか。最近7年間の診療録調査に基づく処方薬・市販薬使用障害患者の実態分析。日本アルコール・薬物医学会雑誌 60(2) : 77-87, 2025. 号, 77-87, 2025年12月.
- 32) 沖田 恭治。【中学生を診ようー一般精神科医における中学生診療の基礎知識ー】中学生の物質使用症 オーバードーズに関する臨床的考察。精神科治療学 40(11) : 1212-1216. 2025年11月
- 33) 沖田 恭治。パニックと不安 対象ごとの理解と工夫 パニック発作/パニック症と物質使用症 こころの科学.2025年9月;(243)
- 34) 沖田 恭治。第2特集 市販薬のオーバードーズ 市販薬オーバードーズと向き合う 依存症専門医療機関における市販薬使用症の治療 治療.2025年7月1日;107(8):1032-1035
- 35) 沖田恭治。精神科疾患に対する向精神薬のオフラベル使用を考える 物質関連障害に対する薬物療法とオフラベルユースについて 臨床精神薬理.2024年12月;27(12):-
- 36) 沖田恭治。物質・医薬品-1.依存性物質 3)鎮咳薬・総合感冒薬 精神科治療学.2024年10月;39(増刊):-
- 37) 沖田 恭治。【精神疾患・精神症状にはどこまで脳器質的背景があるのか-現代の視点から見直す】物質使用症の脳器質的背景 精神医学.2024年4月;66(4):412-417
- 38) 杉原有希, 山中恵里子, 村上真紀, 沖田恭治, 武村尊生, 松本俊彦, 山口重樹.多施設,多職種連携によりオピオイド使用障害から脱した症例を通して考える本邦におけるオピオイド使用障害への対応の問題点 日本サイ

- コオンコロジ 学会 総会 (Web).2024年;37th0:-
- 39) 沖田恭治.実態調査と臨床現場から紐解く市販薬使用の問題 日本精神神経学会総会プログラム・抄録集.2024年;120th0:-
- 40) 五十嵐俊, 沖田恭治, 林大祐, 野田隆政, 鬼頭伸輔, 鬼頭伸輔.Long COVID に続発した大うつ病性障害(MDD)に対する反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)による炎症性変化について:症例報告 日本うつ病学会総会プログラム・抄録集.2024年;21st0:-
- 41) 沖田 恭治.【アディクションとその周辺】アディクション総論 アディクションの発症機序と病態を説明する理論 ドパミンを無視してアディクションを理解すること勿れ 報酬系とドパミン神経伝達について 精神科治療学.2023年10月;38(増刊):44-48
- 42) Hiroshi Matsuda, Tsutomu Soma, Kyoji Okita, Yoko Shigemoto, Noriko Sato. Development of software for measuring brain amyloid accumulation using 18 F-florbetapir PET and calculating global Centiloid scale and regional Z-score values. Brain and behavior. 2023年7月;13(7):e3092-.
- 43) 林大祐, 五十嵐俊, 山崎龍一, 松田勇紀, 松尾淳子, 稲川拓磨, 川上裕, 沖田恭治, 藤井猛, 野田隆政, 住吉太幹, 鬼頭伸輔. 磁気けいれん療法(MST)により寛解した高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S408-S408.
- 44) 林大祐, 五十嵐俊, 山崎龍一, 松田勇紀, 松尾淳子, 稲川拓磨, 川上裕, 沖田恭治, 藤井猛, 野田隆政, 住吉太幹, 鬼頭伸輔. 磁気けいれん療法(MST)から電気けいれん療法(ECT)に切り替えた高齢者うつ病の一例 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S409-S409.
- 45) 松尾淳子, 林大祐, 五十嵐俊, 松田勇紀, 山崎龍一, 稲川拓磨, 川上裕, 沖田恭治, 藤井猛, 野田隆政, 住吉太幹, 鬼頭伸輔. 精神疾患へのニューロモデュレーション療法のための探索的マスタープロトコル アンブレラ・バスケット試験 精神神経学雑誌. 2023年6月;(2023特別号):S696-S696.
- 46) 沖田 恭治, 松本 俊彦.【精神科医療の必須検査-精神科医が知っておきたい臨床検査の最前線】物質およびアルコール使用障害の診断・治療において望まれる対応と検査 精神医学.2023年6月;65(6):891-898
- 47) 沖田 恭治.【感情の力 コントロールと言語化を超えて】臨床実践における感情作業 アディクション診療において感情を扱うことの難しさ アレキシサイミアとの関係 精神療法.2023年4月;49(2):207-211
- 48) Yoko Shigemoto, Noriko Sato, Norihide Maikusa, Daichi Sone, Miho Ota, Yukio Kimura, Emiko Chiba, Kyoji Okita, Tensho Yamao, Moto Nakaya, Hiroyuki Maki, Elly Arizono, Hiroshi Matsuda. Age and Sex-Related Effects on Single-Subject Gray Matter Networks in Healthy Participants. Journal of personalized medicine. 2023年2月26日;13(3):-.
- 49) Yehong Fang, Yi Liu, Ling Li, Dara G Ghahremani, Jianhua Chen, Kyoji Okita, Wenbin Guo, Yanhui Liao. Editorial: Community series in neurobiological biomarkers for developing novel treatments of substance and non-substance addiction, volume II. Frontiers in psychiatry. 2023年;14:1134561-1134561.
- 50) Hiroshi Matsuda, Tsutomu Soma, Kyoji Okita, Yoko Shigemoto, Noriko Sato. Development of software for measuring brain amyloid accumulation using 18 F-florbetapir PET and calculating global

- Centiloid scale and regional Z-score values. Brain and behavior. 2023;13(7):e3092-.
- 51) Daisuke Hayashi, Shun Igarashi, Ryuichi Yamazaki, Yuki Matsuda, Takuma Inagawa, Yutaka Kawakami, Kyoji Okita, Takamasa Noda, Tomiki Sumiyoshi, Shinsuke Kito. Magnetic seizure therapy for depression in the very elderly: A report of two patients in their 80s Asian Journal of Psychiatry. 2023;90: 103806- 103806.
- 52) Shun Igarashi, Kyoji Okita, Daisuke Hayashi, Ryuichi Yamazaki, Yuki Matsuda, Takamasa Noda, Koichiro Watanabe, Shinsuke Kito. Neuroinflammatory Alterations in Treatment-Resistant Depression Secondary to Long COVID by Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation (rTMS): A Case Report Psychiatric Research and Clinical Practice. 2024;6(2):63-64.
- 53) Takashi Usami, Kyoji Okita, Takuya Shimane, Toshihiko Matsumoto. Comparison of patients with benzodiazepine receptor agonist-related psychiatric disorders and over-the-counter drug-related psychiatric disorders before and after the COVID-19 pandemic: Changes in psychosocial characteristics and types of abused drugs. Neuropsychopharmacology reports. 2024;44(2):437-446.
- 54) Kaori Ishii, Kyoji Okita. Potential effect of ketamine in treatment for dextromethorphan use disorder exploding in Japanese young population. Asian journal of psychiatry. 2024;99:104164-104164.
- 55) Shimane T, Inoura S, Kitamura M, Kitagaki K, Tominaga K, Matsumoto T. Prevalence of Over-the-Counter Drug Abuse and Associated Psychosocial Factors Among High School Students: A Nationwide Cross-Sectional Survey in Japan. Neuropsychopharmacology Reports. 2025;45(2): e70030.
- 56) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Kitamura M, Matsumoto T. Characteristics linked to mortality risk among individuals with drug use disorders enrolled in drug rehabilitation facilities in Japan. PCN Reports. 2025;4(2): e70112.
- 57) Omiya S, Shimane T, Takagishi Y, et al. Gender Differences in the Effects of Trust on Substance Abuse Severity Among Incarcerated Stimulant Offenders in Japan. Neuropsychopharmacology Reports. 2025;45(1): e12517.
- 58) Kohara S, Kamijo Y, Takai M, Kyan R, Hasegawa E, Shimane T. Use of Extracorporeal Therapies to Treat Severe Caffeine Poisoning. Hemodial Int. 2025 Jun 24.
- 59) Mizuno S, Shimane T, Inoura S, Matsumoto T. Co occurring mental and substance use disorders among residents of Drug Addiction Rehabilitation Centers (DARCs) in Japan: Characterizing dual diagnosis profiles. PCN Reports. 2025;4(3), 2025.9.
- 60) 嶋根卓也: 市販薬の不適切仕様に対して薬局薬剤師にできること. 治療 107(8):88-92, 南山堂, 2025.7.
- 61) 猪浦智史、嶋根卓也. タイ王国における薬物乱用防止教育の特徴:アジア諸国で初めて大麻を合法化した国から学べること, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 60(2);100-110,2025.

2. 学会発表

令和5年度

- 1) Ayumi Takano, Koki Ono, Makito Sato, Masaki Onuki, Jun Sese, Toshihiko Matsumoto: Impact of methamphetamine use on cardiovascular risk and sleep deprivation: objective assessment using wearable activity tracker and mobile application. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 85th Annual Scientific Meeting, Colorado, 2023.6.20.
- 2) 松本俊彦:【教育講演 4】ベンゾジアゼピン受容体作動薬乱用・依存症患者の理解と治療. 第15回日本不安症学会学術大会, オンデマンド, 2023.4.19~20.
- 3) 松本俊彦:【教育講演 4】依存症と不安症. 第115回日本不安症学会学術大会, オンデマンド, 2023.5.19~2023.6.30.
- 4) 松本俊彦:【薬事小委員会主催セミナー:小児神経領域薬剤の薬物依存を検討する】人はなぜ薬物依存症になるのか. 第65回日本小児神経学会学術集会, 岡山, 2023.5.25.
- 5) 松本俊彦:【シンポジウム 10】医薬品の乱用・依存の現状と未来に向けた課題. 第16回日本緩和医療薬学会年会, 兵庫, 2023.5.28.
- 6) 松本俊彦:【基調講演】薬物関連精神疾患治療の現状. 第59回日本肝臓学会サテライトシンポジウム, 奈良, 2023.6.17.
- 7) 松本俊彦:【シンポジウム 68】さまざまな精神科領域における身体症状症—専門的知見に基づく検討. 第119回日本精神神経学会学術総会, 神奈川, 2023.6.23.
- 8) Matsumoto Toshihiko:【委員会シンポジウム 23 (国際委員会)】Countermeasures for addiction in Japan. 第119回日本精神神経学会学術総会, 神奈川, 2023.6.23.
- 9) 松本俊彦:【シンポジウム 82】物質使用症臨床における支持的な精神療法—harm reduction psychotherapyの実践. 第119回日本精神神経学会学術総会, 神奈川, 2023.6.24.
- 10) 松本俊彦:【教育講演 7】捕まらない薬物の乱用・依存～鎮痛薬および他の医薬品の乱用・依存. 日本ペインクリニック学会第57回学術集会, 佐賀, 2023.7.14.
- 11) 松本俊彦:【全体シンポジウム】自傷と他害を考える. 日本犯罪心理学会第61回大会, オンライン, 2023.9.23.
- 12) 松本俊彦:【シンポジウム 6】依存症対策プロジェクトチーム:処方薬依存の現状と対応～精神科診療所ができること. 日本精神科診療所協会第29回学術研究会, 東京, 2023.9.24.
- 13) 松本俊彦:【イブニングセミナー2】アルコールとうつ、自殺～「死のトライアングル」を防ぐために. 第31回日本精神科救急学会学術総会, 山口, 2023.10.6.
- 14) 松本俊彦:【特別講演 1】人はなぜ薬物依存症になるのか～からだの痛みとこころの痛みの精神病理. 第5回日本緩和医療学会関東甲信越支部学術集会 第36回栃木県緩和ケア研究会合同開催, 栃木, 2023.10.9.
- 15) 松本俊彦:【シンポジウム 3】アディクション臨床とトラウマ. 2023年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 16) 松本俊彦:【市民公開講座】「孤立の病」としての依存症～回復には集まる場所が必要だ～. 2023年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 17) 堤史織, 宇佐美貴士, 高野歩, 熊倉陽介, 金澤由佳, 松本俊彦:薬物犯罪による保護観察対象者の地域支援からの脱落:Voice Bridges Project. 2023年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 18) 新海浩之, 嶋根卓也, 松本俊彦:依存症回復施設につながる人の断薬・断酒状況の変化に関するカテゴリカル時系列分析:縦断調査か

- らの知見. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 19) 水野聡美, 嶋根卓也, 猪浦智史, 松本俊彦: 薬物依存者の断酒継続が断薬継続に及ぼす影響: 薬物依存回復施設利用者のパネルデータを用いた研究. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 20) 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 高校生における市販薬乱用の有病率の推計: 薬物使用と生活に関する全国高校生調査 2021 より. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 21) 宇佐美貴士, 松本俊彦: 市販薬関連精神障害の最近の傾向～全国の精神科医療施設における薬物関連障害の実態調査から～. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 22) 沖田恭治, 佐藤典子, 木村有喜男, 重本蓉子, 釈迦堂充, 齊藤友美, 松本俊彦: アルコール使用障害を対象としたアミロイド PET/拡散尖度画像 MRI 研究. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 23) 正高佑志, 杉山岳史, 赤星栄志, 松本俊彦: 日本の大麻使用障害と残遺性大麻関連障害のリスク因子に関する検討. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 24) 喜多村真紀, 嶋根卓也, 高橋哲, 小林美智子, 大伴真理恵, 鈴木愛弓, 松本俊彦: 薬物関連問題に対する影響因としての月経前症状と ACE—全国の刑務所における「薬物事犯者に関する研究」より. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 25) 片山宗紀, 藤城聡, 杉浦寛奈, 小西潤, 稲田健, 白川教人, 松本俊彦: 薬物使用のある人に対する依存症専門医療機関の医療者のスティグマ的態度と、影響を与える要因. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 26) 石井香織, 沖田恭治, 船田大輔, 勝海学, 松本俊彦: (ポスター) 国立精神・神経医療研究センターにおける市販薬使用障害患者背景の後方視研究. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.15.
- 27) 高野歩, 大野昂紀, 佐藤牧人, 瀬々潤, 松本俊彦: (ポスター) 覚醒剤使用が心拍数および睡眠に与える影響: ウェアラブル活動計量とスマホアプリを用いた計測. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 28) 田中紀子, 松本俊彦, 常岡俊昭, 上村敬一, 金織来多: (ポスター) ギャンブル障害のスクリーニングツール「LOFT」の有用性と妥当性に関する研究. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 29) 沖田恭治, 喜多村真紀, 岡野宏紀, 齊藤友美, 嶋根卓也, 松本俊彦: (ポスター) 物質使用障害を取り巻くスティグマを惹起・持続させる言語表現に関する質的研究. 2023 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 30) 松本俊彦: 【指導医講習会】てんかん専門医が知っておくべき薬物依存. 第 56 回日本てんかん学会学術集会, 東京, 2023.10.19.
- 31) 松本俊彦: 【特別講演】アディクションと自傷行為. 第 33 回日本嗜癖行動学会秋田大会, オンライン, 2023.11.18.
- 32) 松本俊彦: 【特別講演 2】自分を傷つけずにはいられない～アディクションと自殺. 第 130 回日本小児精神神経学会学術集会, 香川, 2023.11.26.
- 33) 松本俊彦: 【教育講演 2】自分を傷つけずにはいられない人の理解と援助. 第 3 回日本公認

- 心理師学会学術集会, オンデマンド, 2023.12.10.
- 34) 松本俊彦:【教育講演】トラウマとアディクションからの回復. 第29回関西アルコール関連問題学会滋賀大会, 滋賀, 2023.12.17.
- 35) Kyoji Okita, Noriko Sato, Yukio Kimura, Yoko Shigemoto, Mitsuru Syakadou, Yumi Saito, Toshihiko Matsumoto: Amyloid PET and diffusion kurtosis imaging for alcohol use disorder: a multimodal study. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 85th Annual Scientific Meeting, Colorado, 2023.6.20.
- 36) 喜屋武玲子, 上條吉人, 安部寛子, 大下敏隆, 小原佐衣子: 救急医療施設を受診したデキストロメトルファンおよびジフェンヒドラミン中毒の臨床的・心理学的特徴に関する調査. 第7回 Japanese Society of Clinical & Analytical Toxicology (J's-CAT) 学術集会.(岡山)2nd.SEP.2023
- 37) Shimane T, Inoura S, Kitamura M, Matsumoto T: Abuse of Over-The-Counter Medications and COVID-19 related stress among high school students: from a nationwide cross-sectional survey in Japan. International drug forum 2023, Bangkok, Thailand, 2023. 8. 7-9.
- 38) Shimane T, Inoura S, Kitamura M, Matsumoto T: Abuse of Over-The-Counter Medications and COVID-19 related stress among high school students: from a nationwide cross-sectional survey in Japan. Thailand Addiction Scientific Conference 2023, Chiang Mai, Thailand, 2023. 8. 9-11.
- 39) 嶋根卓也, 高橋 哲, 近藤 あゆみ, 大伴 真理恵, 小林 美智子, 秋田 悠希, 竹下 賀子, 松本 俊彦: 覚醒剤事犯者の理解とサポート: 法務省法務総合研究所との共同研究. シンポジウム 21「依存症調査研究事業の成果紹介」
- 第119回日本精神神経学会学術総会, 神奈川, 2023.6.22.
- 40) 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用を例として-. シンポジウム 3「薬物過量摂取」第50回日本小児臨床薬理学会学術集会, 大阪, 2023.10.1.
- 41) 新海浩之, 嶋根卓也: 薬物依存回復施設につながる人の断薬状況の変化に関するカテゴリカル時系列分析. 日本犯罪心理学会第61回大会, オンライン, 2023.9.23-24.
- 42) 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 高校生における市販薬乱用の有病率の推計: 薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021より. 2023年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 43) 水野聡美, 嶋根卓也, 猪浦智史, 松本俊彦: 薬物依存者の断酒継続が断薬継続に及ぼす影響: 薬物依存回復施設利用者のパネルデータを用いた研究. 2023年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 44) 喜多村真紀, 嶋根卓也: 大学生における物質使用関連問題に対する援助要請意図について-学内援助機関に焦点を当てて-. 2023年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 岡山, 2023.10.14.
- 45) 助友裕子, 市瀬雄一, 細川佳能, 大浦麻絵, 嶋根卓也, 杉崎弘周, 中川明日香, 東尚弘: 高等学校2年生のがんリスク認知の関連要因-がん対策推進に資するがん教育事業評価のための全国調査データの解析-. 一般社団法人日本学校保健学会第69回学術大会, 東京, 2023.11.12.
- 46) 喜多村真紀, 沖田恭治, 岡野宏, 嶋根卓也, 松本俊彦: 「ダメ。ゼッタイ。」という表現が違法薬物の使用経験を有する者に与える印

象について. 第 45 回全国大学メンタルヘルス学会総会, 北海道, 2023.12.21-22.

- 47) Ryoko Kyan: Abuse, Dependence, and Overdose of Over-the-counter drugs in Japan. North American Congress of Clinical Toxicology (NACCT) 2023.(Montreal, Quebec Canada)2nd.OCT.2023

令和 6 年度

- 1) 谷渕由布子, 大宮宗一郎, 宇佐美貴士, 松本俊彦: わが国の精神科臨床現場における市販薬乱用の特徴: 単一製品乱用者と複数製品乱用者の比較. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 北海道, 2024.6.20-22.
- 2) 高野歩, 大野昴紀, 奥田華代, 瀬々潤, 湯本洋介, 松下幸生, 松本俊彦: 飲酒が心拍数および睡眠に与える影響: ウェアラブル活動量計とスマホアプリを用いた計測. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 3) 田中紀子, 松本俊彦: 重複障害の病的ギャングラーにおける回復コミュニティ・アクセス促進要因の研究. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 4) 高野歩, 高橋邦彦, 安齋達彦, 宇佐美貴士, 堤史織, 金澤由佳, 熊倉陽介, 松本俊彦: 男性の覚醒剤使用者における違法薬物再使用リスク: 保護観察対象者の前向きコホート研究. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 5) 水野聡美, 猪浦智史, 松本俊彦, 嶋根卓也: 市販薬乱用と飲酒の関係: 薬物使用に関する全国住民調査の結果から. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 6) 正高佑志, 三木直子, 松本俊彦: 貴方はなぜ大麻を吸うのですか?: 日本人大麻使用者を対象とした質的調査. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 7) 片山宗紀, 藤城聡, 杉浦寛奈, 小西潤, 稲田健, 白川教人, 松本俊彦: COVID-19 が全国 of 精神保健福祉センター及び民間団体の依存症支援活動に与えた長期的影響の相違-4 年間の長期調査から-. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 8) 沖田恭治, 松本俊彦, 齊藤友美, 重本蓉子, 佐藤典子: (ポスター) パーキンソン病治療薬を用いた覚醒剤使用障害の薬物療法開発を目指した脳機能画像研究: 中間解析. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 9) 石井香織, 沖田恭治, 齊藤友美, 吉澤一巳, 松本俊彦: (ポスター) 処方薬及び市販薬使用障害患者背景の縦断的調査研究 (第 1 報). 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 10) 堀内健太郎, 常岡俊明, 杉沢諭, 田中紀子, 松本俊彦: (ポスター) GA 参加者の発達傾向に関する調査. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 11) 松本俊彦: 【ワークショップ 6】若者の自傷・自殺や依存. 日本学生相談学会 第 42 会大会, 宮城, 2024.5.25.
- 12) 松本俊彦: 【シンポジウム 2】市販薬オーバードーズで SOS に蓋をする～大人の都合に翻弄される子どもたち～. 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 静岡, 2024.6.9.
- 13) 松本俊彦: 【パネルディスカッション 10】がん治療における心理社会的要因を主とする痛みを再検討する. 第 29 回日本緩和医療学会学術大会 第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会, 兵庫, 2024.6.15.
- 14) 成瀬暢也, 松本俊彦: 【司会】一般シンポジウム 27 市販薬乱用・依存の実態・治療・対策

～いま若者たちに何が起きているのか？. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 北海道, 2024.6.20-22.

- 15) 松本俊彦, 引地和歌子:【一般シンポジウム 27】監察医務院から見た市販薬中毒死の実態. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 北海道, 2024.6.20-22.
- 16) 太刀川弘和, 松本俊彦:【司会】一般シンポジウム メディア×メンタルヘルス 3.0—どう協働すべきか. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 北海道, 2024.6.20-22.
- 17) 松本俊彦:【一般シンポジウム 22】薬物問題をめぐる情報発信のあり方—専門家だからこそすべきこと. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 北海道, 2024.6.20-22.
- 18) 松本俊彦:【基調講演】自殺予防と中毒 薬物依存を中心に. 第 46 回日本中毒学会総会・学術集会, 兵庫, 2024.7.24.
- 19) 松本俊彦:【招請講演】薬物依存症における stigma の克服と inclusion. 第 56 回日本医学教育学会大会, 東京, 2024.8.9.
- 20) 水野聡美, 堤史織, 片山宗紀, 新田慎一郎, 大野昂紀, 安間尚徳, 塩澤拓亮, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩:【シンポジウム 2 AS2-1】ハームリダクションに基づく支援の導入・普及に関する研究: グループインタビュー調査の実施背景と研究方法の説明. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 21) 堤史織, 片山宗紀, 新田慎一郎, 水野聡美, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦:【シンポジウム 2 AS2-2】アルコール・薬物使用問題の経験がある当事者の視点から見るハームリダクションに基づく支援において重要な要素. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 22) 片山宗紀, 堤史織, 新田慎一郎, 水野聡美, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩:【シンポジウム 2 AS2-3】大きな理想をもって、本当のハーム・リダクションを目指して”-アルコール・薬物の家族の視点から. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 23) 新田慎一郎, 水野聡美, 堤史織, 片山宗紀, 大野昂紀, 塩澤拓亮, 安間尚徳, 嶋根卓也, 松本俊彦, 高野歩:【シンポジウム 2 AS2-4】支援者の立場から考える”ハームリダクションに基づく支援における重要な要素. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 24) 松本俊彦:【シンポジウム 6 PS6-1】薬物依存症臨床から見た医薬品乱用・依存の実態と治療上の課題. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 25) 松本俊彦:【ワークショップ 2 PWS2-1】トラウマとアディクションからの回復のために何が必要か? 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 26) 松本俊彦:【スポンサードセミナー: アウエイ合同会社】刑務所出所者に対してどう情報提供を行うか? ~保護観察から地域精神保健福祉への橋渡しの試みから~. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 27) 松本俊彦:【市民公開講座】人はなぜアルコールや薬物にハマるのか? 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 28) 松本俊彦:【教育講演 3】薬物依存症臨床から見た市販薬乱用・依存の実態と治療上の課題. 第 8 回日本精神薬学会総会・学術集会, 東京, 2024.9.22.
- 29) 松本俊彦:【特別講演】市販薬乱用・依存の理解と援助. 第 78 回東北精神神経学会, 秋田, 2024.10.6.

- 30) 松本俊彦：【特別鼎談】金融資本主義とアディクション. 第24回日本外来精神医療学会, 東京, 2024.10.13.
- 31) 松本俊彦：【シンポジウム5】依存症治療の立場からみた若年に広がる物質使用障害の現状、背景、課題. 第65回日本児童青年精神医学会総会学術集会, 愛媛, 2024.10.18.
- 32) 沖田 恭治、実態調査と臨床現場から紐解る市販薬使用の問題、第120回日本精神神経学会学術総会、札幌、2024/6/20、口頭（シンポジウム）
- 33) 喜屋武玲子、上條吉人、安部寛子、大下敏隆、小原佐衣子：救急医療施設を受診したデキストロメトルフアンおよびジフェンヒドラミン中毒の臨床的・心理学的特徴に関する調査. 第7回 Japanese Society of Clinical & Analytical Toxicology (J's-CAT) 学術集会.(岡山)2nd.SEP.2023
- 34) 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 第127回日本小児学会学術集会, モーニング実践講座, 2024.4.20.
- 35) 嶋根卓也：「助けて」が言えない子どもたち-市販薬の乱用・依存を例として-. 日本社会薬学会 社会薬学フォーラム 2024, 2024.4.28.
- 36) 嶋根卓也：「濫用等のおそれのある医薬品」の販売制度の現状と課題. シンポジウム「市販薬過量服用の現状とその対策」第8回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会, 神奈川, 2024.5.10.
- 37) 嶋根卓也：(ランチョンセミナー)「助けて」が言えない子どもたち:急増する市販薬のオーバードーズの背景と対応を考える. 第8回日本臨床・分析中毒学会 総会・学術集会, 神奈川, 2024.5.10.
- 38) Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. 2024 Drug Treatment Systems and Recidivism Prevention Symposium, Taiwan (Jiayi), 2024.5.30.
- 39) Shimane T. Children Who Can't Say "Help": The Increasing of Over-the-Counter Drug Overdose in Japan. Bali Psychiatric Center, Minister of Health and Welfare, Taiwan (Bali), 2024.5.31.
- 40) 嶋根卓也：(シンポジウム)大麻乱用による健康被害と断るスキル：有効な、有効ではない予防教育. 第57回日本薬剤師会学術大会, 埼玉, 2024.9.23.
- 41) 嶋根卓也、片山宗紀、榊原幹夫：(シンポジウム)市販薬の乱用・依存とゲートキーパーとしての薬剤師. 2024年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.19.
- 42) 新田慎一郎、嶋根卓也：(シンポジウム)覚醒剤依存症のゲイ・バイセクシュアル男性における支援ニーズ. 2024年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 43) 嶋根卓也：(シンポジウム39)市販薬のオーバードーズとさりげない「おせっかい」-ゲートキーパーとしての薬剤師-. 第34回日本医療薬学会年会, 千葉, 2024.11.3.
- 44) 引土絵未、嶋根卓也、小高真美、秋元恵一郎、加藤隆、大吉努、山村りつ、吉野美樹：依存症者の就労支援に関する研究：ハローワークを対象とした依存症者の就労に関する実態および意識調査. 2024年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.20.
- 45) 喜多村真紀、高田雅弘、江藤不二子、首藤誠、嶋根卓也：X (旧 Twitter) 上の『OD レポ』解析を通じた市販薬過量服薬の現状把握と予防啓発の検討. 2024年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.

- 46) Tooru Nemoto, Mariko Iwamoto, Emiko Kamitani, Min Zhengv, Takuya Shimane : Marijuana and Other Substance Use Behaviors among Japanese Nationals Temporarily Staying in the U.S. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 47) 嶋根卓也, 水野聡美, 猪浦智史, 邱冬梅 : 一般住民における市販薬乱用の経験率の推計 : 薬物使用に関する全国住民調査 2023 より. 2024 年度 アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 48) Takuma Ofuchi, Takuya Shimane, Toshihiko Matsumoto : The Role of Spirituality in Methamphetamine Abstinence Among Japanese Participants in 12-Step and DARC Programs. 2024 年度アルコール・薬物依存関連学会 合同学術総会, 東京, 2024.9.21.
- 6) 松本俊彦 : 【シンポジウム 14】子どものアディクション～自傷とオーバードーズを中心に～. 第 47 回日本アルコール関連問題学会 熊本大会, 熊本, 2025. 9. 5.
- 7) 松本俊彦 : 【特別講演 2】若年女性の自殺予防～市販薬のオーバードーズ. 第 49 回日本自殺予防学会総会, 島根, 2025. 9. 7.
- 8) 松本俊彦 : 【特別講演】自分を傷つけずにはいられない！～自傷とオーバードーズの理解と対応. 第 43 回日本小児心身医学会学術集会, 東京, 2025. 9. 19.
- 9) 松本俊彦 : 【シンポジウム 1】社会に発信する精神科診断はどうあるべきか. 第 44 回日本精神科診断学会, 大阪, 2025. 10. 4.
- 10) 松本俊彦 : 【教育講演 3】ハームリダクションの理解と臨床への応用～依存症グレーゾーンの支援実績にどう生かすか? 第 44 回日本精神科診断学会, 大阪, 2025. 10. 4.
- 11) 松本俊彦 : 【スポンサードシンポジウム 1】刑務所出所者に対してどう情報提供を行うか?～保護観察から地域精神保健福祉への橋渡しの試みから～. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.

令和 7 年度

- 1) 松本俊彦 : 【教育講演 6】SNS 時代の精神科医の役割. 第 43 回日本社会精神医学会, 東京, 2025. 3. 14.
- 2) 松本俊彦 : 【教育講演 5】オーバードーズの現状と対応. 第 128 回日本小児科学会学術集会, 愛知, 2025. 4. 18.
- 3) 松本俊彦 : 【ワークショップ】自傷・オーバードーズ、薬物依存の理解と対応. 日本学生相談学会第 43 回大会, 愛知, 2025. 5. 10.
- 4) 松本俊彦 : 【特別企画 2】刑務所出所者に対してどう情報提供を行うか?～保護観察から地域精神保健福祉への橋渡しの試みから～. 第 61 回日本肝臓学会, 東京, 2025. 6. 6.
- 5) 松本俊彦 : 【ワークショップ 6 (広報委員会)】精神科医によるソーシャルメディア配信のトリセツー誤解を解き、正しい知識を届けるために～. 第 121 回日本精神神経学会学術総会, 兵庫, 2025. 6. 20.
- 12) 宇佐美貴士, 松本俊彦, 嶋根卓也 : 【シンポジウム 9】全国の依存症専門医療機関を受診する患者における市販薬乱用の実態に関する研究. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 13) 嶋根卓也, 片山宗紀, 榊原幹夫, 松本俊彦 : 【シンポジウム 9】市販薬の販売に従事する薬剤師向けゲートキーパー研修プログラムの開発について. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 14) 松本俊彦 : 【特別講演 4】市販薬オーバードーズの実態と対策の課題～薬剤師にできることは何か?～. 第 58 回日本薬剤師会学術大会, 京都, 2025. 10. 13.

- 15) 松本俊彦: 【教育講演 4】市販薬オーバードーズの理解と援助. 第 46 回日本臨床薬理学会学術総会, 東京, 2025. 12. 5.
- 16) 宇佐美貴士, 松本俊彦, 嶋根卓也: デキストロメトルファンにおける市販薬関連精神障害の特徴: 依存症専門医療機関に対する市販薬調査より. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 17) 高野歩, 水野聡美, 片山宗紀, 堤史織, 新田慎一郎, 大野昂紀, 安間尚徳, 塩澤拓亮, 嶋根卓也, 松本俊彦: ハームリダクション実践における重要な要素: フォーカスグループインタビューと文献レビューによる質的研究. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 18) 高野歩, 水野聡美, 片山宗紀, 堤史織, 新田慎一郎, 大野昂紀, 安間尚徳, 塩澤拓亮, 嶋根卓也, 松本俊彦: ハームリダクション実践における重要な要素: デルファイ調査. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 19) 正高佑志, 片山宗紀, 太組一朗, 松本俊彦: 大麻はゲートウェイドラッグなのか?: 市中大麻使用者を対象とした大規模オンライン調査二次解析. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 20) 水野聡美, 嶋根卓也, 猪浦智史, 喜多村真紀, 松本俊彦: 日本の薬物依存症回復施設利用者における 5 年間の死亡率と死亡原因の分析: DARC 追っかけ調査の結果から. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 21) 堤史織, 高野歩, 宇佐美貴士, 熊倉陽介, 金澤由佳, 武林亨, 杉山大典, 松本俊彦: 薬物関連の服役経験をもつ人々の出所後における困りごとと主観的な生活評価の関連: 時期・性別による特徴. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 22) 嶋根卓也, 宇佐美貴士, 松本俊彦: 市販薬の乱用にはブランド嗜好性がある: 依存症専門医療機関を受診する患者を対象とする全国調査より. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 23) 嶋根卓也, 片山宗紀, 榊原幹夫, 松本俊彦: 市販薬の販売時における乱用リスクの認知について: 薬剤師向けゲートキーパー研修の効果に関する研究より. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 24) 宇佐美貴士, 西村晃萌, 沖田恭治, 山本泰輔, 谷渕由布子, 大宮宗一郎, 松本俊彦: 違法薬物と医薬品関連精神障害の比較から精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査から. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 25.
- 25) 宇佐美貴士, 西村晃萌, 沖田恭治, 山本泰輔, 谷渕由布子, 大宮宗一郎, 松本俊彦: 「故意の自傷や自殺企図」と薬物関連精神疾患に関連する要因の検討. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 25.
- 26) 石井香織, 沖田恭治, 齋藤友美, 吉澤一巳, 松本俊彦: 処方薬および市販薬使用障害患者における心理的特徴の比較検討. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 23-25.
- 27) 大野昂紀, 奥田華代, 瀬々潤, 松本俊彦, 高野歩: ウェアラブル活動量計を用いたハイリスク飲酒がある人の睡眠質推定アルゴリズムの開発. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 23-25.
- 28) Kyoji Okita, Noriko Sato, Yukio Kimura, Yoko Shigemoto, Mitsuru Syakadou, Yumi Saito, Toshihiko Matsumoto: Amyloid PET

- and diffusion kurtosis imaging for alcohol use disorder: a multimodal study. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 85th Annual Scientific Meeting, Colorado, 2023.6.20.
- 29) 石井 香織, 沖田 恭治ほか. 処方薬・市販薬使用障害に関する縦断研究. JH リトリート 2025.
- 30) Ishii K, Okita K et al. Change in attitudes towards addiction treatment among individuals with legal substance use disorder in Japan; CPDD 87th Annual Scientific Meeting. June 2025
- 31) Saito Y, Okita K et al. Comparison of substance use disorder patients' psychological characteristics in Japan: methamphetamine vs. dihydrocodeine vs. benzodiazepines; CPDD 87th Annual Scientific Meeting. June 2025
- 32) 喜屋武玲子, 上條吉人, 安部寛子, 大下敏隆, 小原佐衣子: 救急医療施設を受診したデキストロメトルファンおよびジフェンヒドรามイン中毒の臨床的・心理学的特徴に関する調査. 第 7 回 Japanese Society of Clinical & Analytical Toxicology (J's-CAT) 学術集会. (岡山)2nd. SEP. 2023
- 33) Ryoko Kyan: Abuse, Dependence, and Overdose of Over-the-counter drugs in Japan. North American Congress of Clinical Toxicology (NACCT) 2023.(Montreal, Quebec Canada)2nd.OCT.2023
- 34) 引地和歌子: 監察医務院から見た市販薬関連死の実態. 多業種のための社会精神医学セミナー. 日本社会精神医学会. 2024 年 4 月. 東京.
- 35) 嶋根卓也: 市販薬のオーバードーズに関する理解と予防教育: 古典的おどし教育からの脱却. シンポジウム 2 第 33 回日本健康教育学会学術大会, 東京, 2025. 7. 6.
- 36) 嶋根卓也: 市販薬のオーバードーズに関わる情報提供のあり方-ダメと言わない支援のススメ-. パネルディスカッション1 医薬品中毒と情報, 第 47 回日本中毒学会総会, 東京, 2025. 7. 26.
- 37) 喜多村 真紀, 高田 雅弘, 江藤 不二子, 首藤 誠, 嶋根卓也: ソーシャル・ネットワーク・サービスを情報源とするテキストマイニングおよび 予防啓発に関する研究, シンポジウム 9「みんなで考えようオーバードーズ対策: 基礎・臨床・予防・販売それぞれの観点から」. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 38) 嶋根卓也: 市販薬のオーバードーズの理解と対応. 江戸川医学会, 東京, 2025. 11. 16.
- 39) 嶋根卓也: 市販薬のオーバードーズに関する理解と予防教育. 古典的おどし教育からの脱却. 令和 7 年度全国学校保健・安全研究大会, 神奈川, 2025. 11. 21.
- 40) Takano A, Mizuno S, Katayama M, Tsutsumi S, Shinden S, Ono K, Yasuma N, Shiozawa T, Shimane T, Matsumoto T. Identifying High-Priority Elements of Harm Reduction Practices in Japan: A Delphi Study, The Australasian Professional Society on Alcohol and other Drugs (APSAD2025), Shimane, 2025.10.
- 41) 嶋根卓也, 水野 聡美, 猪浦 智史, 邱 冬梅, 北垣 邦彦, 小出 彰宏, 富永 孝治, 竹原 健二: 中学生における市販薬乱用の経験率の推計: 飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査 2024 より. 第 60 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025. 10. 24.
- 42) 猪浦 智史, 嶋根卓也: タイ王国における薬物乱用防止教育の特徴: 教育カリキュラムや保健の教科書から学べること. 第 60 回日

本アルコール・アディクション医学会学術総会，東京，2025.10.25.

- 43) 喜多村 真紀, 高田 雅弘, 江藤 不二子, 首藤 誠, 嶋根卓也 : X 投稿文の対応分析が示す市販薬過量服薬に関する情報の継時的変化と2023年の構造的特異性. 第60回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025.10.25.
- 44) 喜多村 真紀, 高田 雅弘, 江藤 不二子, 首藤 誠, 嶋根卓也 : X 投稿文の共起分析による市販薬過量服薬の実態 : 濫用等のおそれのある医薬品と未指定医薬品の比較より. 第60回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025.10.25.
- 45) 中島 美鈴, 平井 祥一, 森 治美, 嶋根卓也 : 身近な人とのコミュニケーションスキルに焦点づけた少年の大麻再使用防止のためのプログラム. 第60回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 東京, 2025.10.25.
- 46) Ochi M, Ishitsuka K, Matsubara K, Hoshino E, Shimane T, Mizuno S, Takehara K: Alcohol, Tobacco, and Menstrual Health Trends in Japan's Adolescents: 2024 Nationwide School Survey. The 36th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association & The 3rd Joint Scientific Meeting with the IEA Western Pacific Region, Nagasaki, 2026.1.29.

